

2.11集会

信教の自由を守る日

対面または
ZOOMによる
オンライン参加

2025. 2 .11 火

15:00-17:00

参加費:無料

日本基督教団天満教会 大阪府大阪市北区天神西町4-15

「天皇制と権力の脱構成」

講師 栗原康さん（東北芸術工科大学非常勤講師）

プロフィール：栗原康（くりはらやすし）1979年、埼玉県生まれ。アナキズム研究。東北芸術工科大学非常勤講師。著書に『幸徳秋水伝』（夜光社）、『超人ナイチンゲール』（医学書院）、『大杉栄伝』（角川ソフィア文庫）、『村に火をつけ、白痴になれ』（岩波現代文庫）、『死してなお踊れ』（河出文庫）、『無支配の哲学』（角川新書）、『サボる哲学』（NHK新書）、『アナキズム』（岩波新書）など。ビール、長濱剛、河内音頭が好き。

「天子金もち、大地主。人の血をすふ、ダニがおる」。これは一九一一年、大逆事件で吊るされた仏教アナキスト、内山愚童のことばだ。明治政府によって発明された近代天皇制。宗教よろしく、みずからを神の子孫と名のり、万物の始原そのものであると言いつている。この国のものはすべて朕のもの。徴税、徴兵あたりまえ。ダニだ、一大収奪者だ。だけど、その天皇の名のもとに、戦争でひとを死なせ、工業化をすすめ、自然を破壊し、農村を疲弊させ、民を飢えさせても天皇制はゆるがない。

いまの政権はいらぬという声が強くなっても、その根拠とされるのが天皇制なのだ。万物の始原にたちかえり、既存の法秩序にとらわれずに、あらたな権力を発動していく。まっさらな状態から新秩序を構成していく。天皇制は構成的権力のトリガーなのだ。わたしたちは、そんな権力の回路から抜けだすことができるだろうか。権力者コノヤローといって、仲間とつるんで政治的になればなるほど、身近なところに権力がなくなっていく。支配のない共同の生が紡がれていく。権力の脱構成を思考しよう。明治大正期のアナキストのことばをつかひながら、そんなお話がきたらとおもいます。

<zoom配信申込みについて>

Zoom参加の方は、お名前・教会名（所属名）・メールアドレスをご記入のうえ、e-mailにて山下壮起委員長宛、2月9日(日)までにお申し込みください。集会前日までに招待メールをお送りします。

【申込先】uccj.osaka.2.11@gmail.com

※大阪教区の申し合わせにより、集会開始の3時間前から開始時間の間に、大阪府(大阪市)に気象警報(大雨・洪水・大雪・暴風・暴風雪・波浪・高潮)が発令された場合、集会は中止いたします。また、4時間前から開始時刻までに解除された場合も中止いたします。予めご了承ください。

主催:日本基督教団大阪教区

担当:日本基督教団大阪教区「教会と天皇制」を考える特別委員会